

[オモテ]

No.



評価 [○をつける]

○ × ?!

撮影日時

年 月 日 時ごろ

~にとって [○をつける]

①職員 ②入居者

③その他 ()

~ということが

~と思った

こんな工夫ができるかも…

コメント

撮影場所 (箇所)

PEAP本棟3次元: 1・2・3・4・5・6・7・8・その他 (○をつける)

[ウラ]

参加者ID

参加者プロフィール (該当するものひとつに○をつけてください)

1. キャプション評価に参加するのは何回目ですか?

① () 回目 ②初めて参加

2. あなたの立場は?

①常勤職員 ②非常勤職員 ③利用者家族 ④ボランティア ⑤本人

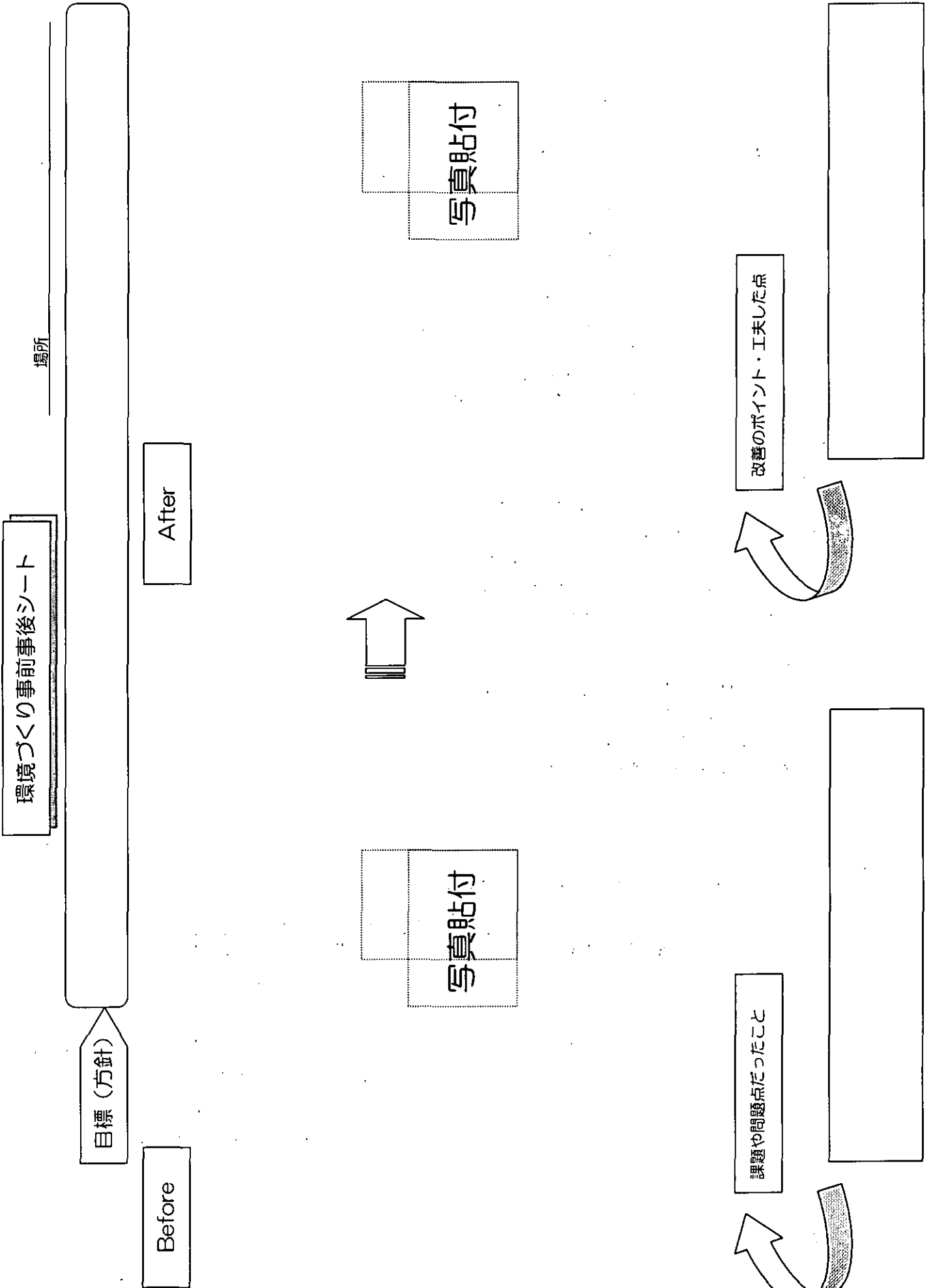
⑥その他 () ←専門などあれば具体的に

3. あなたの性別は?

①男性 ②女性

4. あなたの年齢は?

①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代



【参考文献】

1. 厚生科学研究費補助金 21世紀型医療開拓推進研究事業 平成13年度 研究報告書
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成14年(2002)3月
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
2. 厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 平成14年度 研究報告書
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成15年(2003)3月
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
3. 厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 平成15年度 研究報告書
「痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究」 平成16年(2004)3月
主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
4. 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業 平成14年度 研究報告書
「在宅痴呆性高齢者の環境適応の円滑化と介護負担軽減のための居住支援プログラムの開発に関する研究」 平成15年(2003)3月 主任研究者 児玉桂子 日本社会事業大学教授
5. 「痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり—実践に役立つ環境評価と整備手法—」
児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編 2003年 彰国社

【施設環境づくり検討グループ】

- 児玉 桂子 (日本社会事業大学 社会福祉学部教授)
影山 優子 (日本社会事業大学 社会事業研究所研究員)
下垣 光 (日本社会事業大学 社会福祉学部助教授)
大島 千帆 (日本社会事業大学 社会事業研修所研究員)
足立 啓 (和歌山大学 システム工学部教授)

【研究協力】

- 鈴木みな子 (浦和大学・前墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム施設長)
堀江 敏子 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)
今野比奈子 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)
大下 敏之 (墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム)

このハンドブックは、厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業
平成15年度事業の一環として作成したものです。

痴呆性高齢者への環境支援指針(PEAP)を用いた施設環境づくり実践ハンドブック

平成16年(2004)3月

発行 日本社会事業大学 児玉研究室

主任研究者 児玉桂子

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

FAX 0424-96-3001

E-mail k.kodama@jcs.ac.jp

研究成果の刊行に関する一覧

(平成13年度～平成15年度)

- 学会誌・学術誌・紀要
- 著書
- 国際学会発表
- 国内学会発表
- シンポジウム・ワークショップ
- その他
- 受賞

●学会誌・学術誌・紀要

- 大島千帆・児玉桂子・後藤隆・足立啓・三宅貴夫：痴呆性高齢者の在宅環境整備に関する研究—家族介護者の自由記述に基づく住居配慮の次元—、痴呆ケア学会誌、Vol.3、No.1、2004
- 児玉桂子：高齢者向け居住環境の評価研究—一般の高齢者及び痴呆性高齢者に求められる環境の質—、老年社会科学、25(1)：28-36、2003
- 平田麗・児玉昌久：中・高齢者における分泌型免疫グロブリン A と精神的健康度およびライフスタイルの関連についての検討、ストレス科学研究、Vol.18、54-62、2003
- 下垣光・児玉桂子・秋葉直子・影山優子・足立啓・潮谷有二・松永公隆：痴呆性高齢者ケアにおける環境を活かした支援に関する研究—日本版の検討から—、日本社会事業大学研究紀要、49、215-227、2003
- 松永公隆・児玉桂子：アメリカにおける痴呆性高齢者に及ぼす環境の効果に関する研究の検討：特に施設環境の効果に焦点を当てて、純心現代福祉研究、No.8、71-88、2003
- 潮谷有二・児玉桂子・足立啓・下垣光・松永公隆・神谷愛子・山口結花：アメリカにおける痴呆性高齢者に及ぼす環境の効果に関する研究の検討：特に施設環境の効果に焦点を当てて、純心現代福祉研究、No.8、71-88、2003
- 潮谷有二・児玉桂子・足立啓・下垣光・松永公隆・神谷愛子・山口結花：痴呆性高齢者環境配慮尺度(施設版)の開発とその有効性に関する研究、純心現代福祉研究、No.8、43-70、2003
- 児玉桂子・原田奈津子・潮谷有二・足立啓・下垣光：痴呆性高齢者への環境配慮が特別養護老人ホームスタッフのストレス反応に及ぼす影響、介護福祉学、第9巻第1号、59-70、2002
- 児玉桂子：痴呆性高齢者の居住環境研究のあり方と課題、日本痴呆ケア学会誌、1(1)、57-62、2002
- 児玉桂子・児玉昌久：家族介護者のストレス反応に及ぼす居住環境の影響、ストレス科学研究、Vol.17、10-19、2002
- 松原茂樹・足立啓・舟橋國男・児玉桂子：入居者に対する介護職員の関わりに関する考察—ユニットケア型高齢者福祉施設における介護職員のケアのあり方に関する研究—、日本建築学会計画系論文集、No.561、137-144、2002
- 石川弥栄子・小池和子：シルバーピアにおける痴呆高齢者の生活実態とワーデンの役割、日本建築学会関東支部研究報告集、II、5-8、2002
- 井澤修平・平田麗・児玉昌久：ストレスフィルムに対する分泌型免疫グロブリン A 反応、ストレス科学研究、Vol.17、53-57、2002
- 中村奈々子・児玉昌久：高齢者を対象としたストレス関連尺度(第1報)—ストレッサー、認知的評価の測定尺度について—、ストレス科学研究、Vol.17、89-96、2002
- 平田麗・児玉昌久：唾液中の分泌型免疫グロブリン A(s-IgA)に及ぼす笑いの効果、ストレス科学研究、Vol.17、105-107、2002
- 潮谷有二・児玉桂子・下垣光他：特別養護老人ホームの専門的環境とケア行為の関連性に関する研究—九州圏内の特別養護老人ホームを中心として—、純心現代福祉研究、No.7、55-68、2002
- 潮谷有二・児玉桂子・下垣光他：特別養護老人ホームの職場環境と痴呆性高齢者に対する環境配慮の関連性に関する研究—九州圏内の特別養護老人ホームを中心として—、純心現代福祉研究、No.7、69-93、2002
- 潮谷有二・児玉桂子他：九州圏内の特別養護老人ホームの専門的環境とケア行為の実態に関する調査研究、純心現代福祉研究、No.7、95-108、2002
- 潮谷有二・児玉桂子他：九州圏内の特別養護老人ホームの職場環境と痴呆性高齢者に対する環境配慮の実態に関する調査研究、純心現代福祉研究、No.7、109-125、2002
- 後藤隆：質的データから特定領域理論へ(続)—コード化プロセス・ISM・ブール代数分析・SD・概念クラスタリング、日本社会事業大学社会事業研究所年報、No.37、49-64、2001
- 松永公隆・児玉桂子他：アメリカにおける痴呆性高齢者環境評価尺度の開発の動向、純心現代福祉研究、

- 松永公隆・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二他：痴呆性高齢者のための施設環境評価に関する一研究－PEAPの施設環境評価を中心として、日本ソーシャルワーカー協会岡山支部機関誌、No.19、11-29、2001

●著書

- 児玉桂子：痴呆性高齢者への在宅環境支援、児玉桂子・鈴木晃・田村静子編、高齢者が自立できる住まいづくり－安心生活を支援する住宅改造と工夫－、75-83、彰国社、2003
- 下垣光：痴呆性高齢者ケアと環境、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、8、彰国社、2003
- 赤木徹也・足立啓：日本における痴呆性高齢者の住環境に関する研究動向、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、15、彰国社、2003
- 長倉真寿実：海外における痴呆ケアユニットの位置づけ、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、28、彰国社、2003
- 神谷愛子・児玉桂子：PEAP（短縮版）からみたデンマークの痴呆ケアユニット、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、41、彰国社、2003
- 松永公隆：アメリカにおけるケア環境評価尺度、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、50、彰国社、2003
- 下垣光・児玉桂子・影山優子・足立啓・松永公隆・潮谷有二・秋葉直子：環境支援指針の作成と活用上の課題、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、66、彰国社、2003
- 影山優子・下垣光・児玉桂子：環境支援指針からみたユニットケア施設、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、79、彰国社、2003
- 児玉桂子・影山優子・下垣光・大島千帆：特別養護老人ホームにおける施設環境づくりのプロセス、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、86、彰国社、2003
- 鈴木みな子・堀江敬子・今野比奈子・大下敏之：施設側からみた施設環境づくりの取り組みと課題、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、95、彰国社、2003
- 潮谷有二・児玉桂子：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発と活用方法、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、104、彰国社、2003
- 児玉桂子：痴呆性高齢者への環境配慮と職員のストレス、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、119、彰国社、2003
- 下垣光：特別養護老人ホームにおけるユニットケア施設の実践、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、128、彰国社、2003
- 松原茂樹・足立啓：ユニットケア施設が痴呆性高齢者・職員に及ぼす影響、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、133、彰国社、2003
- 田村静子：在宅痴呆性高齢者のための住環境への工夫と配慮、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、144、彰国社、2003
- 土居加奈子・足立啓：痴呆性高齢者の住まい方からみた在宅ケア環境、児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二編、痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり－実践に役立つ環境評価と整備手法－、152、彰国社、2003

○児玉桂子：在宅環境支援のあり方、老年期痴呆の克服をめざして、281-292、財団法人長寿科学振興財団、2003

●国際学会発表

- M.Nagakura,K.Kodama,K.Adachi:The development and application of therapeutic environment screening survey for nursing homes japanese version, The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts, 117, 2003
- U.Hirata,K.Kodama:The relationship between salivary sIgA, daily events,And the stress of care workers in elderly people with dementia, The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts, 149, 2003
- N.Nakamura, M.Kodama, Y.Aoyagi:The relationship between stage of change for stress management behavior and stress-related variables in japanese elderly, The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts,188,2003
- Y.Kageyama, K.Kodama, H.Shimogaki, C.Oshima:The study on designing environment in special nursing homes, The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts, 195, 2003
- H.Shimogaki, K.Kodama, K.Adachi, Y.Shiotani, K.Matsunaga, N.Akiba:Reserch on the utilization of professional environmental assessment protocol for elderly with dementia(PEAP japanese version), The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts, 196, 2003
- K.Kodama, T.Gotoh, C.Oshima, k.Adachi:The study on the environment improvement for the elderly with dementia 1:the effectiveness of the home environment improvement, The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology Book of Abstracts, 204, 2003
- U.Hirata, M.Kodama:The relationships between secretory immunoglobulin A(sIgA) and life style in middle-aged and elderly sample, 17th Conference of the European Health Psychology Society Book of Abstracts, 90, 2003
- N.Nakamura, M.Kodama:Stage of change for stress management behavior in a japanese elderly representative sample, 17th Conference of the European Health Psychology Society Book of Abstracts, 110, 2003
- S.Matubara,K.Adachi,K.Funahashi:The structure of care services tob support each elderly resident with dementia in two facilities with group livings ,34th Conference of Environmental Design Research Association, 2003
- U.Hirata,M.Kodama:The effects of laughter on the secretory immunoglobulin A(sIgA) in saliva, International journal of behavioral Medicine,Vol.9,supplement1,115,2002
- S.Izawa,U.Hirata,M.Kodama:The relationships among expressing and repressing anger, secretory immunoglobulin A(sIgA), and cortisol in university students, International journal of behavioral Medicine,Vol.9,supplement1,127-128, 2002
- Y.Joh,Y.Shiihara,Y.Nagano,Y.Tezuka,U.Hirata,M.Kodama:The effects of meta-motivational mode control on stress reactivity during coping with stressors that are difficult to solve, International journal of behavioral Medicine, Vol.9, supplement1, 129, 2002
- Y.Tezuka,Y.Shiihara,Y.Nagano,Y.Joh,U.Hirata,M.Kodama:The effect of prior information about stressors on stress reactivity under uncontrollable situations, International journal of behavioral Medicine,Vol.9,supplement1,269,2002
- K.Yamada,M.Kodama:Cardiovascular responses to psychological stress during exercise, International journal of behavioral Medicine,Vol.9,supplement1,299,2002

●国内学会発表

- 大島千帆・児玉桂子・後藤隆・三宅貴夫・足立啓：痴呆性高齢者の状態像に対応した在宅環境整備に関する研究－痴呆性高齢者の類型に対応した住居配慮－、老年社会科学、25(2)、2003
- 松原茂樹・足立啓・舟橋國男・児玉桂子：ユニットケア型高齢者福祉施設における介護職員の滞在時間に関する考察、

日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、517-518、2003

- 松本真生子・郡山智彦・足立啓・田中千歳：既存介護老人福祉施設の痴呆ユニットケアに関する研究～ユニット間の分節が異なる2施設比較(その1)～、日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、513-514、2003
- 郡山智彦・足立啓・田中千歳・児玉桂子：既存介護老人福祉施設の痴呆ユニットケアに関する研究～ユニット間の分節が異なる2施設比較(その2)～、日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、515-516、2003
- 影山優子・児玉桂子・下垣光・大島千帆・鈴木みな子・堀江敬子・大下敏之・今野比奈子：特別養護老人ホームにおける環境づくりの試み(2)－キャプション評価法による環境づくり前後の記述内容の変化－、第4回日本痴呆ケア学会大会抄録集、193、2003
- 植野知津子・足立啓他：痴呆性高齢者のユニットケア環境が入居者に与える影響(その1)－入居者の滞在場所と行動内容に関する考察－、日本建築学会大会学術講演梗概集、323-324、2002
- 津田康弘・植野知津子・足立啓他：痴呆性高齢者のユニットケア環境が入居者に与える影響(その2)－入居者の関わり状況の事例的考察－、日本建築学会大会学術講演梗概集、325-326、2002
- 村上綾江・松原茂樹・足立啓他：痴呆性高齢者のリビングにおける居合わせと関わり行動－高齢者ユニットケア施設的环境整備に関する研究(その1)、日本建築学会大会学術講演梗概集、327-328、2002
- 足立啓他：介護職員の滞在状況と介護業務内容－高齢者ユニットケア施設的环境整備に関する研究(その2)、日本建築学会大会学術講演梗概集、329-330、2002
- 松原茂樹・植野知津子・村上綾江・足立啓他：介護職員の入居者に対する関わり場面－高齢者ユニットケア施設的环境整備に関する研究(その3)、日本建築学会大会学術講演梗概集、331-332、2002
- 秋葉直子・児玉桂子・潮谷有二・下垣光・影山優子：施設環境配慮と職員の関わりが痴呆性高齢者の表出行動に及ぼす影響、老年社会科学、24(2)、196、2002
- 下垣光・児玉桂子・影山優子・秋葉直子他：痴呆性高齢者への環境支援のための指針(PEAP 日本版)の開発と適用(その1)－PEAP 日本版2を構成する次元と項目の評価－、老年社会科学、24(2)、197、2002
- 影山優子・下垣光・児玉桂子・秋葉直子他：痴呆性高齢者への環境支援のための指針(PEAP 日本版)の開発と適用(その2)－次元と項目に関する自由記述の分析－、老年社会科学、24(2)、198、2002
- 鳩間亜紀子・児玉桂子・後藤隆・田村静子・大島千帆：排泄空間改造が高齢者の日常生活にもたらす効果とその要因－本人評価と介護者評価をてがかりに－、老年社会科学、24(2)、232、2002
- 植野知津子・足立啓・松原茂樹・児玉桂子・舟橋國男：高齢者施設におけるユニットのつながり方が入居者に与える影響、老年社会科学、24(2)、233、2002
- 足立啓・植野知津子・村上綾江・松原茂樹・児玉桂子・篠崎人理：高齢者ユニットケア施設のデイ空間における入居者の行動、老年社会科学、24(2)、234、2002
- 児玉桂子・後藤隆・大島千帆・鳩間亜紀子・三宅貴夫・田村静子・足立啓：痴呆性高齢者の在宅環境整備に関する研究(その1)－痴呆の状態像別にみた住居配慮の実施と有効性－、老年社会科学、24(2)、263、2002
- 大島千帆・児玉桂子・後藤隆・鳩間亜紀子・三宅貴夫・田村静子・足立啓：痴呆性高齢者の在宅環境整備に関する研究(その2)－自由記述からみた住居配慮の実施と有効性－、老年社会科学、24(2)、264、2002
- 下垣光・秋葉直子・児玉桂子・潮谷有二他：痴呆性高齢者援助における環境を生かした支援に関する研究－痴呆性高齢者への環境支援のための指針から－日本社会福祉学会第50回記念全国大会、123、2002
- 大島千帆・児玉桂子・鳩間亜紀子・田村静子：痴呆性高齢者における住居配慮に関する研究－実施状況を中心とした分析－、日本社会福祉学会第50回記念全国大会、255、2002
- 児玉桂子・田村静子：要介護高齢者の在宅環境整備に関する研究－要介護度からみた住宅改造の内容とその効果－、日本社会福祉学会第50回記念全国大会、375、2002

- 影山優子・児玉桂子・下垣光・大島千帆・倉重光一郎・堀江敬子他：特別養護老人ホームにおける環境づくりへの試み
(1)－キャプション評価法による施設環境評価－、日本痴呆ケア学会、172、2002
- 田村静子・児玉桂子・足立啓・下垣光・ 潮谷有二：在宅痴呆性高齢者の住環境整備に関する研究（その1）－住環境に関する配慮の実行と効果－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 土居加奈子・足立啓・赤木徹也：在宅痴呆性高齢者の住環境整備に関する研究（その2）－事例からみた在宅ケア環境－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 山口結花・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二・松永公隆・神谷愛子：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発に関する研究（その1）－環境配慮の実施度と必要度の関連について－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 潮谷有二・児玉桂子・足立啓・下垣光・松永公隆・神谷愛子・山口結花：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発に関する研究（その2）－次元別尺度の作成について－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 松永公隆・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二・神谷愛子 Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) 日本版の開発と適用に関する研究（その1）－アメリカにおける痴呆性高齢者環境評価に関する研究動向－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 下垣光・児玉桂子・足立啓・潮谷有二・松永公隆・神谷愛子・秋葉直子・影山優子：Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) 日本版の開発と適用に関する研究（その2）－PEAP 日本版の開発の試み－、老年社会科学、大会要旨号、2001
- 秋葉直子・児玉桂子・田村静子・足立啓・下垣光・潮谷有二・土居加奈子・赤木徹也：痴呆性高齢者の在宅ケア環境に関する研究（その1）－在宅痴呆性高齢者の住生活圧における困難さ－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 田村静子・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二・秋葉直子・土居加奈子・赤木徹也：痴呆性高齢者の在宅ケア環境に関する研究（その2）－痴呆の状態別にみた環境配慮とその効果－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 土居加奈子・赤木徹也・足立啓・児玉桂子・下垣光・潮谷有二・田村静子・秋葉直子：痴呆性高齢者の在宅ケア環境に関する研究（その3）－住まい方から居たケア環境の事例検討－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 潮谷有二・児玉桂子・足立啓・下垣光・松永公隆・神谷愛子・山口結花：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発と適用に関する研究（その1）－痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 山口結花・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二・松永公隆・神谷愛子：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発と適用に関する研究（その2）－痴呆性高齢者環境配慮尺度による老人ホームの評価－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 児玉桂子・潮谷有二・足立啓・下垣光・松永公隆・神谷愛子・山口結花：痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発と適用に関する研究（その3）－環境配慮と職員のストレス反応－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 松永公隆・児玉桂子・足立啓・下垣光・潮谷有二・神谷愛子：Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) 日本版の開発と適用に関する研究（その1）－アメリカにおける痴呆性高齢者環境評価尺度の次元構成－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 足立啓・児玉桂子・下垣光・潮谷有二・松永公隆・神谷愛子・秋葉直子・影山優子：Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) 日本版の開発と適用に関する研究（その2）－PEAP 日本版の次元と項目の検討－、日本建築学会学術梗概集、2001
- 下垣光・児玉桂子・足立啓・潮谷有二・松永公隆・神谷愛子・秋葉直子・影山優子：Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) 日本版の開発と適用に関する研究（その3）－PEAP 日本版によるユニットケア施設評価の試み－、日本建築学会学術梗概集、2001

●シンポジウム・ワークショップ

- 吉田紗栄子他：ケアユニットモデルプランの検討、主催 瑞光の里 痴呆ケアユニット研究会、日本教育会館、東京、2

- 児玉桂子・Gerald Weisman・下垣光・鈴木みな子他：日本痴呆ケア学会東京国際セミナー 痴呆症状緩和とケアをたすける環境づくり、主催 日本痴呆ケア学会、共催 高齢者痴呆介護研究研修東京センター・日本社会事業大学社会事業研究所・Shigeo & Megumi Takayama Foundation 他、高齢者痴呆介護研究研修東京センター、東京、2003.8
- 児玉桂子・Gerald Weisman・下垣光・足立啓他：痴呆ケア学会第5回痴呆ケア公開講座 痴呆症状緩和とケアをたすける環境づくり、主催 日本痴呆ケア学会、後援 全国老人福祉施設協議会・住友生命保険他、徳島健祥会福祉専門学校1号館4階講堂、徳島、2003.8
- 足立啓・松永公隆・Gerald Weisman 他：痴呆症状緩和とケアをたすける環境づくり、主催 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会老人施設部会、後援 日本痴呆ケア学会ほか、大阪社会福祉指導センター、大阪、2003.8
- 児玉桂子・足立啓・下垣光・G.D.Weisman・U.Cohhen：痴呆ケア環境支援指針の開発と日本での普及について、ウイシコンシン大学、2002.11
- 児玉桂子：痴呆ケアにおける環境支援一多様な可能性の理解に向けて、第3回日本痴呆ケア学会シンポジウム、別府2002.11
- 児玉桂子・下垣光・影山優子：痴呆ケア実践における環境支援について、高齢者痴呆介護研究研修東京センター、2002.12

●その他

- 児玉桂子：高齢者の住宅内事故と安全な住まいの工夫、ケアリング、Vol.5,No.3、21-25、2003
- 足立啓・児玉桂子：痴呆性高齢者のための環境支援、ケアリング、Vol.5,No.3、26-31、2003
- 下垣光：ユニットケア形式による痴呆性高齢者ケアの実践、mindix、8(2)、26-32、2002
- 下垣光：生活リハビリによるケアと家庭的な生活の場の提供、mindix、8(3)、26-31、2002
- 下垣光：グループホームにおける生活の広がり、mindix、8(4)、26-31、2002
- 児玉桂子監修：あなたもできる 痴呆に配慮した住まいの工夫ーよりよい在宅介護の環境をめざしてー、(財)長寿社会開発センター、2002
- 児玉桂子：老年学のすすめ46ー痴呆ケアと環境 下(取材)、シルバー新報、2004
- 児玉桂子：老年学のすすめ45ー痴呆ケアと環境 上(取材)、シルバー新報、2004
- 児玉桂子：ちょっとした工夫から始めたい痴呆高齢者の住環境整備(取材)、F J C福祉住環境コーディネーターのスキルアップ情報誌、福祉住環境コーディネーター協会、2003
- 児玉桂子：痴呆ケア最新情報 第6回(取材)、介護保険情報、2003
- 児玉桂子：痴呆ケア最新情報 第5回(取材)、介護保険情報、2003

●受賞

- 影山優子：特別養護老人ホームにおける環境づくりの試み(2)ーキャプション評価法による環境づくり前後の記述内容の変化ー、第4回日本痴呆ケア学会石崎賞、2003
- 影山優子：特別養護老人ホームにおける環境づくりへの試みーキャプション評価法による施設環境評価、第3回日本痴呆ケア学会石崎賞、2002

痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究

平成16年3月発行

発行 日本社会事業大学 児玉研究室 児玉桂子

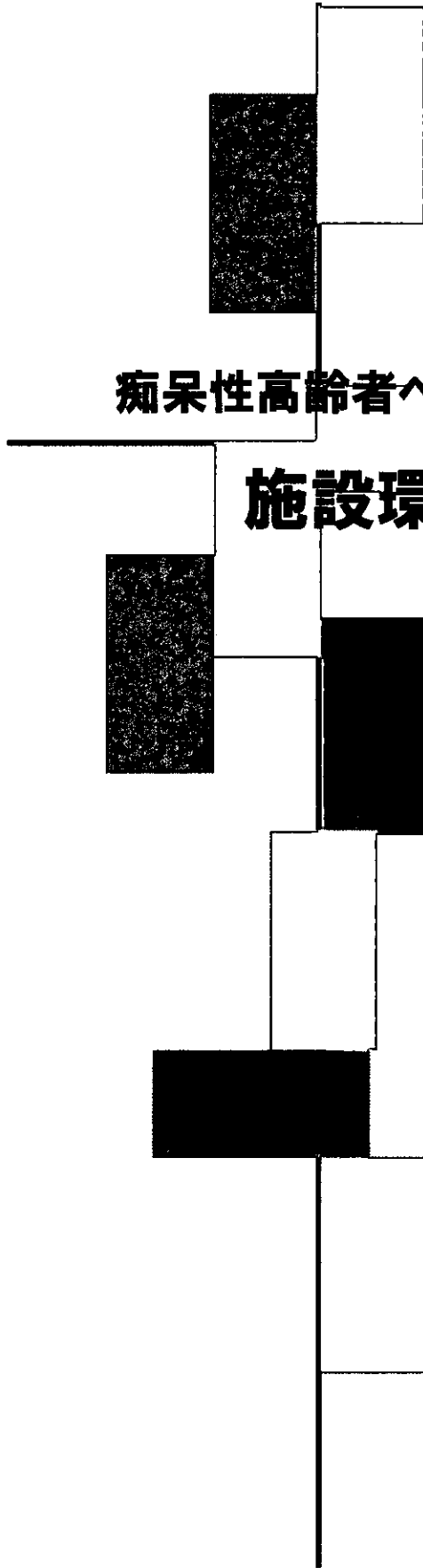
〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

TEL 0424-96-3131

FAX 0424-96-3001

不許複製



痴呆性高齢者への環境支援指針(PEAP)を用いた
施設環境づくり実践ハンドブック

平成16年(2004)3月

主任研究者

児玉桂子 日本社会事業大学教授

目 次

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を指し、どう進めるのか—

1. 施設環境づくりの目的／2
2. 施設環境づくりの進め方／3
3. 本書の使い方／3

STEP1

—痴呆ケアと環境への理解を深める—

1. 施設環境の課題と方向性／4
2. 痴呆性高齢者への環境支援の基本的考え方／4
3. 痴呆性高齢者への環境支援指針 (PEAP日本版3)／5

STEP2

—環境課題を抽出する—

4. キャプション評価法の実施／8
5. キャプション評価法による課題の抽出／10

STEP3

—環境改善計画を考える—

6. 取り組みチームづくり／12
7. チームで課題を整理する／12
8. 環境改善計画の作成／13

STEP4

—実施計画を実施する—

9. 実施計画の作成と実施／14

STEP5

—改善した環境を使いこなす—

10. ケアプラン・生活プランに取り入れる／15
11. 改善した環境の維持・見直し／15

STEP6

—環境づくりの効果を確かめる—

12. 環境作りを記録する／16
13. 評価の方法／16
14. 取り組みの評価／16

【参考資料】 取り組みのプロセスの評価／17 痴呆性高齢者施設環境配慮尺度／18
個別配慮チェックリスト／19 チェックリストのまとめ方／20
キャプションカード書式／21 環境づくり事前事後シート／22

目的と進め方

—施設環境づくりは、何を指し、どう進めるのか—

1 施設環境づくりの目的

◇◆環境改善から生活やケアの質の向上へ◆◇

痴呆ケアにおいて、環境整備の重要性が注目されてきています。しかし、痴呆ケアに環境整備が重要であることはわかっているにもかかわらず、施設で働く一人ひとりのケアワーカーにとっては、施設の環境を変えることは容易ではなく、「与えられた環境の中でケアをするしかない」と考えてしまいがちです。

一方、近年、全室個室やユニット型といった施設も増え始め、施設においても小規模かつ家庭的な環境を活かした個別的なケアへの取り組みが拡大し、ケアの質につながる施設の環境整備を、建築計画の段階から視野に入れて整備された施設も増えてきました。

そのような動きに触発されて、既存の施設でも改善への機運は高く、環境改善をして、その環境を活かした個別的ケアの実現を図る考え方が次第に広まりつつあります。

こうして、痴呆ケアにおいて、生活やケアの向上には、環境整備が不可欠であることが、多くのケアワーカーに意識されるようになってきました。

そこで、本書は施設のケアワーカーに「あなたの施設で、あなたが（あなたたちが）取り組める環境整備」を、「実践的に」紹介するために企画されました。

ケアワーカーがよいケアを目指すために、環境づくりに取り組む…すなわち、施設環境づくりの目的は、「よいケアの実現」です。

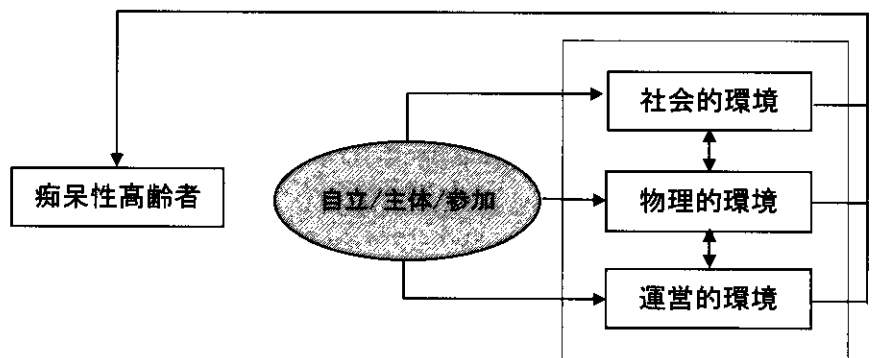
施設環境づくりは、大工事によって行うものばかりではありません。大工事を伴わないレベルで、施設のケアスタッフが取り組める環境改善が多数あります。本書はそのような取り組みを実践できるよう、学ぶ教材として制作したものです。

この本を片手に、あなたも、あなたの施設で、できることから取り組んでみましょう！

◇◆環境を総合的にとらえよう◆◇

施設環境は、建築や設備などの「物理的環境」、スタッフの関わり方などの「社会的環境」、施設のケア方針などの「運営的環境」から構成されています。これらを総合的な環境としてとらえて、一貫性のある環境作りを行うことが、入居者の生活の質を向上させるうえで大切です。

環境を総合的にとらえる…多様な痴呆性高齢者と多面的な環境の相互作用への理解



◆◆ケアスタッフの環境への意識の向上◆◆

環境づくりを実施して快適な環境が実現すればゴールというわけではなく、個々の高齢者に合わせた調整や、ケアに取り入れていく試みが継続的に行われることが大切です。

ケアスタッフ自身が環境づくりに取り組む中で、ケアスタッフの環境への意識が向上し、整備した環境を活かしたよりよいケアができるようになり、ケアの質の向上につながります。

2 施設環境づくりの進め方

ケアスタッフが施設の環境づくりに取り組む際には、右の図に示す6つのステップに沿って進めていくとよいでしょう。

業務の中で取り組むことを考えると、年間計画や月間計画の中に、各ステップを位置づけ、施設全体や取り組むチームのメンバーで「現在どのステップまで進んだか」を共有しながら計画的に進めることも、有効な方法でしょう。

3 本書の使い方

この本は、施設でケアスタッフが環境づくりに取り組む際のリーダーのための研修会でテキストとして使用することができます。

また、研修で学んだことを施設に持ち帰り、他のケアスタッフや取り組みチームのメンバーとともに実践に移す際に、本書の6つのステップを参照しながら

現場で取り組むことができるように作成してあります。「同じように実践してみる」ためのハンドブックとして活用してください。

巻末には、取り組みにあたって必要となる書式を原寸大で添付しているので、これらをコピーして記入しながら進めることができます。



STEP 1

—痴呆ケアと環境への理解を深める—

1 施設環境の課題と方向性

◆◆痴呆性高齢者の増加と施設における痴呆ケアの必要性◆◆

わが国の痴呆性高齢者数は、2000年に156万人、2015年には262万人まで増加すると推計されています。

このような急激な増加

は、高齢者施設における痴呆性高齢者の入居状況にも反映されています。

3種の介護保険施設のいずれにおいても、入居者の9割以上が痴呆症状を有することが明らかになっています。また、その症状は、介護を必要とするランクⅢ以上が半数以上を占めています。

施設のケアにおいて、痴呆ケアは不可欠な要素となっており、施設の環境整備において、痴呆ケアのための環境づくりが欠かせない状況であると言えるでしょう。

	指定介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	介護老人保健施設 (老人保健施設)	介護療養型病床群 (療養型病床群)
入居者数	309,740 人	223,895 人	109,329 人
痴呆性高齢者の割合	92.0 %	90.9 %	92.1 %

資料：平成13年介護サービス施設・事業者調査(厚生労働省)

◆◆痴呆性高齢者への環境の現状と目指す方向◆◆

痴呆性高齢者への環境支援として大切な要素に「自立への支援」「生活の継続性の支援」「自己選択への支援」「プライバシーの確保」「ふれあいの促進」などがあります。

従来の施設の環境は、「大規模」「画一的」「それまでの生活とかけ離れた生活」となりがちな側面がありますが、上記の要素を取り入れることによって改善を図ることができるでしょう。

また、グループホームやユニットケアなどの小グループケアを視野に入れた施設では、「小規模」「家庭的」「生活の継続性」を実現しやすい条件を備えているので、上記の要素を積極的に取り入れれば、より効果的な環境支援の実現を図ることができます。

施設入居者の9割以上が痴呆を持っており、その半数以上が痴呆ケアの対象となる中で、今後の施設の環境づくりは、小規模、家庭的な環境づくりが、基本的な方向となるということを、意識しましょう。

痴呆性高齢者への環境の現状と目指す方向—小規模・家庭的な環境へ—

従来の施設

- ・大規模
- ・画一的
- ・生活の乖離

グループホーム ユニットケア

- ・小規模
- ・家庭的
- ・生活の継続性

痴呆性高齢者への 環境支援

- ・自立への支援
- ・生活の継続性の支援
- ・自己選択への支援
- ・プライバシーの確保
- ・ふれあいの促進

2 痴呆性高齢者への環境支援の基本的考え方

◆◆痴呆症状を背景とする生活上のさまざまな問題◆◆

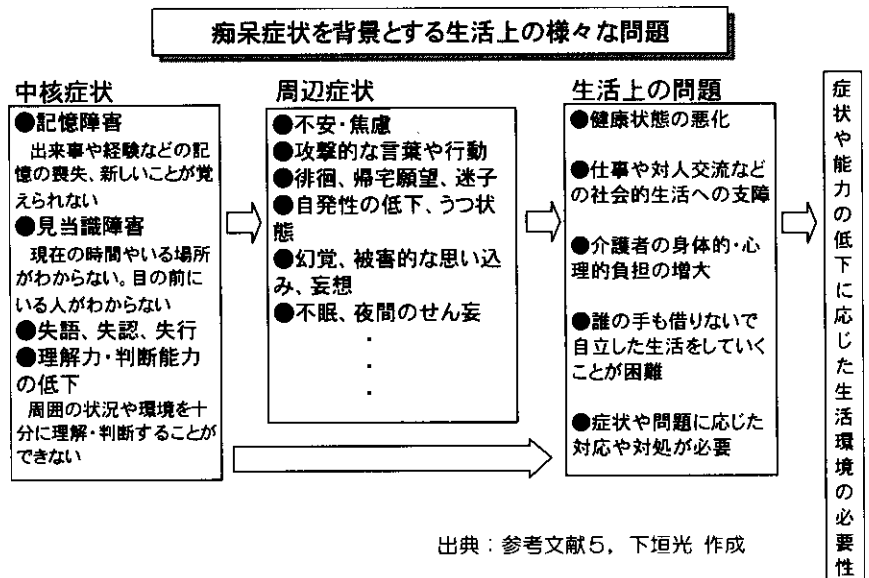
痴呆症状には、痴呆になればだれにでも現れる基本的な症状＝「中核症状」と、その人の生活歴や生活環境、性格などによって、中核症状がもとになって出現する「周辺症状」とがあります。これらの痴呆症状があるため

に、日常生活を送る上で支障となる「生活上の問題」が出現します。

この生活上の問題に対応するために、症状や能力の低下に応じた環境を準備して支援することが必要となります。

◆◆痴呆性高齢者の生活をめぐる課題と支援◆◆

では、具体的に、痴呆性高齢者の生活上の問題に対応するために、「痴呆性高齢者の生活をめぐる課題」を整理してみると、下の図のような課題とそれに応じた支援のあり方が見えてきます。



痴呆性高齢者の生活をめぐる課題と支援

課題

- ①ケアの個別性が強い
- ②不安、混乱状態、心理的孤立
- ③見過ごされやすい残存能力

支援

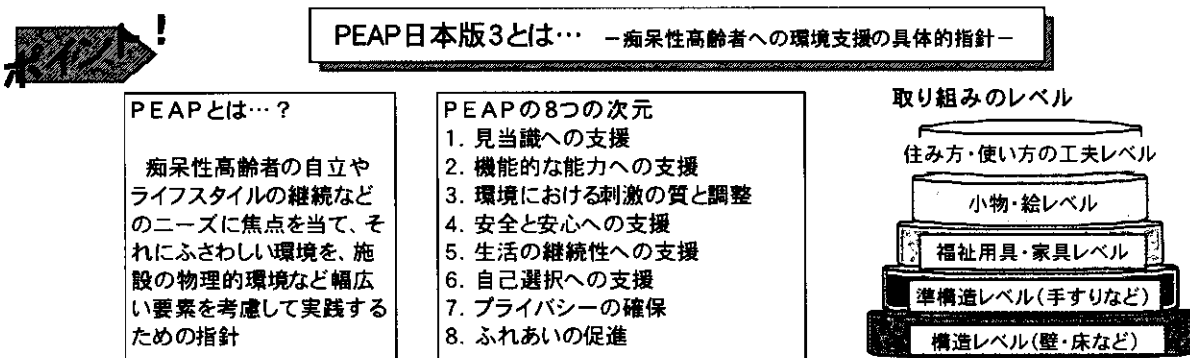
- ①「個別性」を重視したケア
- ②「安心」できる関係や環境づくり
- ③残存能力が発揮できる機会をつくる

3 痴呆性高齢者への環境支援指針（PEAP日本版3）

痴呆性高齢者の環境支援を具体化するための研究は、アメリカを中心に1990年代以降盛んとなり、さまざまな環境評価尺度が作られました。その中の一つに、PEAP（「Professional Environmental Assessment Protocol」1996年、ワイズマン他）があります。わが国でも痴呆ケアの環境支援についての研究が進められており*、PEAPをわが国の実情に即して使えるようにした「PEAP日本版3」が開発されました。

本書では、この「PEAP日本版3」を使って環境整備を進める手法を学びましょう。

「PEAP日本版3」は痴呆性高齢者への環境支援に重要な8つの次元と具体的な内容を示す31の中項目より構成されています。下の図で整理して、理解しましょう。



* 『痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究』（平成13,14,15年 児玉桂子他）

STEP 1

つづき

ピーフ
—PEAP日本版3を理解しよう—

痴呆性高齢者への環境支援のための指針（PEAP日本版3）の8つの次元（大項目）と31の中項目を、事例の写真とともに見てみましょう。

1. 「見当識への支援」

【定義】 環境の物理的・社会的・時間的次元の効果が、利用者の見当識を最大限に引き出すような環境支援についての指針

1) 環境における情報の活用

入居者の見当識を効果的に支援するために、目印や図柄、色などを活用する。



2) 時間・空間の認知に対する支援

毎日の生活の安定を図るために、時間、空間、出来事に対する見当識を効果的に支援する。



3) 空間や居場所のわかりやすさ

通常の施設環境は画一的になりやすいが、痴呆のある入居者にとって、自分がどこにいるかが分かりやすい空間への配慮をする。



4) 視界の確保

生活に必要な場所が、視界に入るように配慮することにより、入居者の安定を図る。

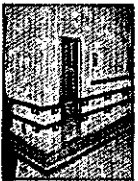


2. 「機能的な能力への支援」

【定義】 日常生活動作（移動、整容、排泄など）への援助において、入居者の日常生活上の自立活動を支え、さらに継続していくための環境支援の指針。

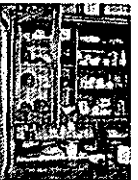
1) セルフケアにおいて、入居者の自立能力を高めるための支援

入居者の排泄、入浴、整容、衣服の着脱動作について、可能な限り入居者の自立能力を高める支援を行う。



2) 食事が自立できるための支援

食事は重要な日課であるが、痴呆がある入居者には困難を伴う場合もある。しかし、意欲を持って食事ができるような環境支援を行うことが必要である。



3) 調理、洗濯、買い物などの活動の支援

調理や洗濯、買い物などの日常生活において必要な行動を、できるだけ自立してできるように環境支援を行う。



3. 「環境における刺激の質と調整」

【定義】 入居者の適応や完成に望ましい刺激、ストレスにならない刺激の質や調整への指針。環境における刺激の質と環境における刺激の調整に分けてとらえる。

～環境における刺激の質～

1) 意味のある良質な音の提供

入居者にとって意味のある、良質な音を生活に取り入れる。



2) 視覚的刺激による環境への適応

不快な刺激を取り除くだけでなく、視覚的刺激により環境への適応を引き出す。



3) 香りによる感性への働きかけ

嗅覚の刺激を取り入れることにより、入居者の感性に働きかける。



4) 柔らかな素材の提供

施設で使用されやすい硬い素材よりも、家庭で用いられる柔らかな素材を使用する。



～環境における刺激の調整～

1) 生活の妨げとなるような騒音の調整

音刺激の影響をふり分けるとは難しく、ここでは入居者の落ち着いた生活の妨げとなる騒音について注目する。



2) 適切な視覚的刺激の提供

人は視覚的刺激により周りの世界を把握している。したがって、混乱を与えない、適切な視覚的刺激を提供する。



3) 不快な臭いの調整

環境の中に「不快な」臭いが、長時間にわたり広く存在しないように調整する。

4) 床などの材質の変化による危険への配慮

床などの材質などを変える場合には、危険への配慮が必要である。

4. 「安全と安心への支援」

【定義】 入居者の安全を脅かすものを最小限にとどめるとともに、入居者はじめ、スタッフや家族の安心を最大限に高めるような環境支援についての指針

1) 入居者の見守りのしやすさ

痴呆のある入居者にとり多くの潜在的な危険が存在するので、スタッフが自然な方法で入居者の状況や活動を容易に見守りやすい。加えて、入居者が不安や孤立感を感じたときに、容易にスタッフを捜すことができる。



2) 安全な日常生活の確保

痴呆のある入居者は認知障害と同時に身体的な低下も経験している。それらを補い、残存機能の保持を支援する環境条件を整える。



5. 「生活の継続性への支援」

【定義】 個々人が慣れ親しんだ環境と生活様式を、①個人的なもの所有、②非施設的环境づくりの2つの側面からユニット内において実現するための指針。

1) 慣れ親しんだ行動様式とライフスタイルの継続への支援

入居者ができる限り慣れ親しんだ活動に参加し続けることができるように、また入居者の能力を最大限引き出すように、環境と施設方針の両側面から支援をする。



2) その人らしさの表現

個々人のライフスタイルの反映である家具や持ちものなどを自宅から持ち込むことを促し、自己実現を可能にする。



3) 家庭的な環境づくり

入居者自身の家具や装飾品に加えて、施設的でない家庭的な雰囲気の環境づくりに多様な手段で取り組む。



6. 「自己選択への支援」

【定義】 物理的環境や施設方針によって入居者の自己選択が図られるような環境支援についての指針。

1) 入居者への柔軟な対応

入居者が居場所や空間を選択することや入居者の行動に対して柔軟に対応する。



2) 空間や居場所の選択

環境の制限されがちな施設においても、空間や居場所の選択を可能にする。

3) いすや多くの小道具の存在

座る場所、関わりを持つ人や物、行われる活動のオプションを多く用意して選択の機会の増加を図る。



4) 居室での選択の余地

居室環境について、入居者自身が選択する余地を用意する。

7. 「プライバシーの確保」

【定義】 入居者のニーズに対応して、ひとりになったり、他との交流が選択的に図れるような環境支援についての指針。

1) プライバシーに関する施設の方針

施設環境におけるプライバシーの確保には、スタッフの努力だけでなく施設全体の方針が大きく影響する。プライバシーの確保の考え方には、入居者のニーズに対応して、一人になれるだけでなく、他との交流が選択的に図れることも含まれる。



2) 居室におけるプライバシーの確保

プライベートな領域の中でもとりわけ居室は重要であり、プライバシーの確保と他との交流について、入居者が調整を図ることができる。



3) プライバシー確保のための空間の選択

入居者が居室などにおいて十分なプライバシーが確保できないときには、他の場所でそれを補うことができる。

8. 「ふれあいの促進」

【定義】 入居者の社会的接触と相互作用を促進する環境支援と施設方針についての指針。

1) ふれあいを引き出す空間の提供

他の入居者とのふれあいの場を選択できるように用意する。



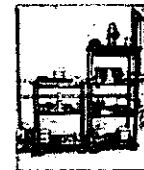
2) ふれあいを促進する家具やその配置

入居者のふれあいを促進するよう家具を用意したり、その配置を工夫する。



3) ふれあいのきっかけとなる小道具の提供

ふれあいのきっかけとなる、入居者の関心を引く小道具を用意する。



4) 社会生活を支える

入居者の社会生活を支えるには、ふれあいの促進とともに一人での場所を確保することも大切である。



STEP2

—環境課題を抽出する—

4 キャプション評価法の実施

環境課題を抽出するために、環境を評価することが必要です。本書では、環境を評価する方法として、「キャプション評価法」を用いる方法を紹介しします。

◆◆キャプション評価法とは？◆◆

「キャプション評価法」とは、評価者がカメラを持って評価する対象を撮影し、その写真をカードに貼り込み、カードの記入欄に、貼り込んだ写真にキャプションを付けるように評価者の感じたことを自由に書き込んで「キャプションカード」を作成、これを掲示または回覧して他の評価者と情報共有する中から共同作業で課題を抽出する、という方法です。

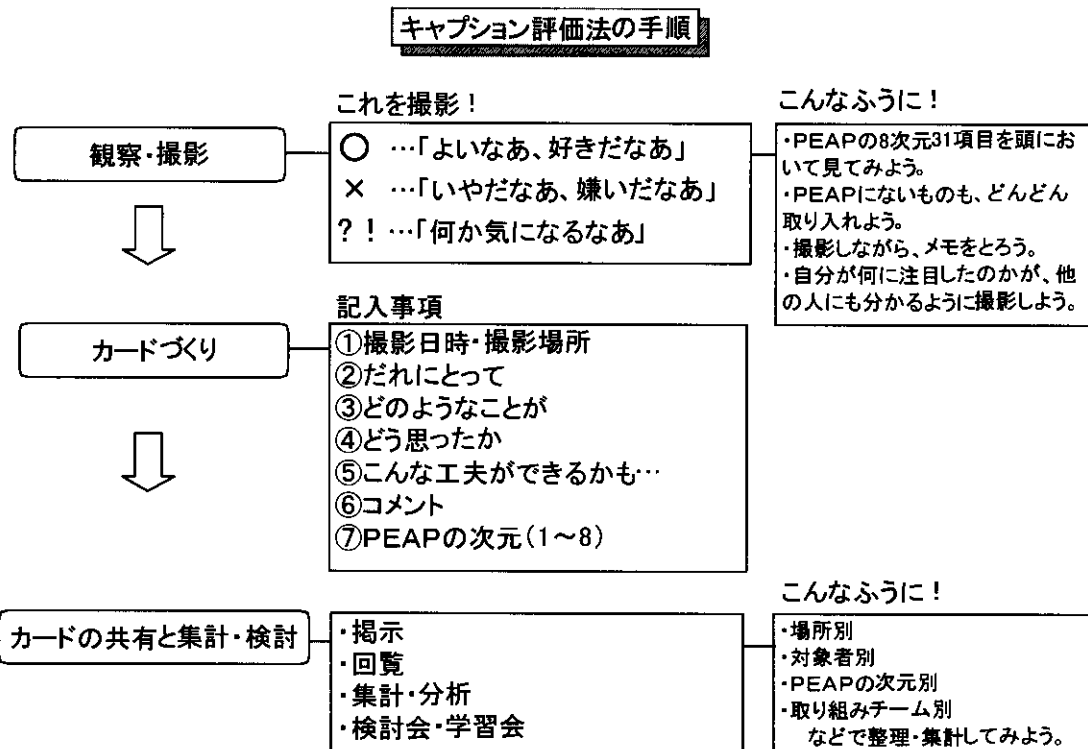
◆◆キャプション評価法の特徴・目的◆◆

キャプション評価法は、観察、撮影、自由な意見記入といったプロセスをそれぞれの評価者が自分で行うという参加型・行動型の評価法です。施設のケアワーカー、入居者、家族など、施設環境に関わるさまざまな人が参加して行います。その過程で、さまざまな立場の評価者の感じたこと、考えたことを、他の評価者全員が理解し、共有し、それを踏まえた課題の共有化を図ることがこの方法の目的です。

また、「環境」という漠然と見てしまいがちな対象をカメラで切り取り、固定して、他者と情報共有してみていることにより、発見と課題の認識に導くこともこの方法の目的の一つです。

◆◆キャプション評価法の実施手順◆◆

キャプション評価法を下の手順に従って実施してみましょう。



【事例】：特別養護老人ホーム「たちばなホーム」（東京都墨田区）で「キャプション評価法」を実施した際には、129枚のキャプションカードが回収され、そのうち、「よい」が41枚、「悪い」が70枚、場所別では、廊下、居室、食堂が多かった。